

演題:PRGF を用いた臨床症例の短期予後についての考察

発表者:渡辺 泰典

抄録:

抜歯即時インプラント埋入症例で PRGF を用いた臨床症例を去年演者は同シンポジウムで発表してきた。それらの症例を整理して抜歯前とインプラント植立後3~5年の CT 像を比較して、その予後安定性について考察していきたい。

頬側の裂開症例に対し自家骨の移植と同時に PRGF を用いたインプラント同時埋入は、外科処置回数の軽減と早期修復が可能で、患者、術者にとっても有益であると考えられる。しかし、その予後安定性については明らかになっていない。この度、抜歯前の CT 像により頬側裂開症例の頬側裂開幅を測定し、二次オペ時にその裂開が封鎖されていることを確認し、更に補綴後3~5年後の CT 像を比較し予後安定性を検討する。いずれの症例も頬側骨は維持されており臨床上問題ないと考えられるが、今後さらなる経過を評価することが必要と考える。



プロフィール:

略歴

1998年 新潟大学歯学部卒業

1998-2002年 横浜市 医療法人審美会 鶴見歯科医院勤務

2002-date 長岡市 あげぼの歯科 院長

2011-2015年 新潟大学医歯学総合大学院 硬組織形態学講座 社会人大学院生

2015-date 新潟大学医歯学総合大学院 硬組織形態学講座 研究生

2015年 博士(歯学)取得(新潟大学)

2015年 日本口腔インプラント学会 専門医 取得

所属

あげぼの歯科 / 一般社団法人東京形成歯科研究会

